

F₁ ヘリアンサス ミス・サンシャイン

学名: *H. annuus*

種子粒数の目安: 95 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)以下が適正

播種

128 穴から 200 穴くらいのトレイサイズが最も利用しやすく、1 粒播きを行う。バーミキュライト、あるいは培地と同じ用土や砂等で覆土する

ステージ 1 - 発芽には 3-5 日要する

温度: 20-22°Cが適正

光条件: 発芽時に光は不要

水分: 培地の水分は、発芽の段階ではふつうから多少湿り気を含む(level 3-4の間)を保つ

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95-97%に維持する

ステージ 2

温度: 昼間は 20-22°C、夜間は 18-20°Cが適正

光条件: ステージ 2 では 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 前のステージ同様、中くらい(level 3)から多少湿り気を含む(level 4)培地の状態を保つ

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7ms/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。培地は pH を 5.8-6.2 の範囲で、また EC 値 0.7ms/cm(2:1)以下で維持する

ステージ 3

温度: 昼間は 18-22°C、夜間は 16-18°Cが適正

光条件: ステージ 3, 4 では 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: 培地の水分をやや乾いた状態(level 2)を保つ。苗を枯らせないように注意する

肥料: レート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC 値は 0.7-1.0ms/cm (1:2)を維持する

ステージ 4

温度: 昼間は 16-22°Cが、夜間は 14-18°Cが適正

光条件: ステージ 3 同様、54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 同様、やや乾いた状態(level 2)を保つ。苗を枯らせないように注意する

肥料: ステージ 3 同様、レート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC 値は 0.7-1.0ms/cm (1:2)を維持する

矮化剤(PGR)

矮化剤(生長制御剤)はプラグ生産の段階ではほとんどの場合不要である。条件的に必要であれば、3 回を上限として B ナインの 1,280ppm(有効成分 85%の溶質を 1 リットルの溶媒中に 1.5 グラム)での葉面散布で効果が確認されている

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

12-13cm のポットによる 1 本植え: 冬場の生産では、短日低日照の影響で大きくならないので、10cm ないし 11、12cm くらいの適当な大きさのポットやコンテナを用いる

15-18cm のポットによる 3 本植え: ポットやコンテナに複数の苗を移植すると、1 本植えのときよりも花の大きさが小さくなる

また、ミス・サンシャインは 6-9cm くらいの小鉢でも仕立て上げることが可能です。小さなポットを用いると、全体的な株や丈の大きさ、また花のサイズなどが小さくなって、相対的にバランスが保たれます

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.5、また EC 値は 0.75mmhos/cm 以下が適正

温度

昼間: 16-18°C

夜間: 18-22°C

同じ季節の作型をとっても、温度が高いと生育が早くなる。実際の生育や開花までの早さについては、温度だけではなく日長時間が関与する。また、ミス・サンシャインは夜温の最低温度が 15°C くらいの低温でも生育が可能な品種です

光条件

適正な温度管理が可能であれば、できるだけ十分かつ高い日照条件(光条件)を保つようにする。光の条件を高く保つことで、茎が強化され、一番花が大きく育ち、さらには二番花の芽をより多くつけるように促されます

日長時間との関係

ミス・サンシャインは年間での生産、作付けが可能な品種です。日長時間と開花の関係について試験を行ったところ、10 時間と 14 時間の日長では 10 時間の条件の株が約 1 週間早く開花する結果が得られた。さらに 10 時間と 16 時間の日長では 10 時間の条件の株が 2 週ほど早く開花した。ただし、開花の条件は温度とも関係しており、温度が低いと開花までの期間が延びる傾向がある

かん水

上からのかん水や過湿にならないよう注意する。用土はふつうからやや乾いた状態で管理して、むらの無いように水やりを行う。午後遅くのかん水は葉上に水滴を残して、ウドンコ病などの病気の好条件を与えてしまう可能性があるため、避ける

肥料

リン酸分の低い硝酸態の肥料をレート 3(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mmhos/cm)で週 1 回、与える。株の生育と培地の pH の状況を見ながら、必要に応じてアンモニア態と硝酸態とのバランスを調整する。pH は 5.8-6.2 を、また EC 値は 1.5-2.0mmhos/cm の範囲を維持する

上記の範囲で EC 値と pH が維持されるのであれば、レート 2 (100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mmhos/cm)の肥料による高頻度の肥料設計をとることも可能

矮化剤(PGR)

矮化剤(生長制御剤)は短日条件であればほとんどの場合不要である。短日で低い温度の条件であれば、草丈は 15cm から 20cm の範囲で育つ

長日で高い温度の条件では、草丈は 25cm から 30cm の高さまで育つであろう。丈を抑える場合は、B ナインを 1,250-2,500 ppm(有効成分 85%の溶質を 1 リットルの溶媒中に 1.5-3 グラム)で葉面散布する。通常は生産の終盤に 1 回の処理で十分である。矮化剤の処理によって開花が数日遅れることがある

平均的な生産期間

播種から移植まで: 約 2,3 週(200 穴トレイ)

128 穴などのセルの大きなトレイを用いるとあと 1 週長くなる

移植から出荷(開花)まで: 夏~秋の生産では 6 から 7 週、冬~早春の生産では 7 から 8 週

- 温度の低い条件(土地)では、夏~秋の生産で 1 週、冬~早春の生産ではさらに 2,3 週長く要する

病虫害について

害虫: アブラムシに注意する

病気: 一般に出回っている流通品種よりも病気には強いが、ウドンコ病に注意が必要

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。